

エール

第5号 JANUARY, 2020

～児童へのアンケート～

■勉強になったこと

- 農業はとても大変な仕事で難しく、でも人々の役に立っているとてもステキな仕事だと思いました。
- 今回はハサミを使ったが本当はカマで刈るということを知った。また、昔は機械もなく、大規模だったため、とても大変だと感じられた。
- 田植えのところから、お米の収穫までを体験できて、ダメになってしまうお米が結構あったので、お米の貴重さが勉強になったところだと思います。
- お米を収穫する大変さです。植えるところから、収穫するところまで、水をあげたり、様子を見たり大変さを学びました。

■感想を自由に

- 小5の私でも疲れるのに、農家の方々はこのような事をされていると思うと、すごいと思いました。今度からお米はとてもありがたく食べたいと思います。
- この授業をやって農家の人の気持ちがすごくわかったり、お米を作るのにすごく時間が経っているのがすごくわかった。
- こんなに手間をかけているから、お米はおいしいのだと、思いました。
- 農業の人って大変なんだな～と思いました。ぼくたちは小さいのでやっつけ、本当は数倍もかかっているから大変だな～と思いました。
- 広い田んぼでご年配の人がほとんどやっているから「大変だろうな」と思いました。若い人の方で行っている人が少ないのは残念です。でかい田んぼで次はやりたいです。

王子地区

2019.10.3 Thu【稲刈り】—5年生

柳田小学校

この日取材した稲刈りは独特だった。プランターから所狭しと伸びる稲穂を皆で囲み、各自手にした普通のハサミで先端の穂の部分のカットする。1本ずつ丁寧に、ひたすら切る。一般的な「稲刈り」のイメージとは随分違うが、スペースや分量、限られた条件に柔軟に適應した収穫方法なのかもしれない。



作業は着々と進み、最終的にはただの1粒も取りこぼすことなく収穫を終えた。残った茎や葉の部分も、ハサミで細かく刻まれ、肥料となった。

ボランティアの高橋さんに教わって苗を植え、班ごとに日々水やりを経たこの日の収穫。その後、穴を開けた缶を使って粒をばらす(脱穀)まで子どもたちで行う。粒をすり鉢に入れソフトボール



ボランティアの高橋さん

でゴリゴリすると玄米に。さらに瓶に入れ棒でコツコツすると白米になるのだが、現在は精米業者に依頼している。できたお米は学校給食に混ぜる形でいただく。

「授業としては総合、社会科、発芽も絡むので理科、食べることで家庭科の食育へ、と枠を超えた総合的な教育を通して、児童の日常につなげてあげることが大切。普段何気なく食べているお米に向き合える貴重な時間なので、大事に扱いたい。

また、ボランティアさんも2～3日に1度学校に来て、稲の状態を確認して下さるなど、献身的に熱心な活動をして下さっている。が、何年も先のことを考えると、高橋さんがいて下さる現在だからこそできる貴重な授業だと思っている。」と担当の先生は語った。

5月の終わり頃、一人一苗ずついただき、ボランティアの笹目さんに教わりながら植える。雑草を抜いたり、背丈がどれだけ伸びたか記録をつけたりして、夏休み前には育ったものを収穫する。それを各自が持って帰るまでが授業。笹目さんは近隣の農家さん。2年生の「さつまも」栽培に関しても全面的にご支援くださっている。長年に亘るこのような貴重な機会をしっかりと授業につなげて生かし、児童がこれを「当たり前」と思ってしまうまいよう、「感謝の気持ち」を忘れないよう伝えたい。(担当の先生のお話)



荒川小学校



体育館裏でセミが羽化する立地を生かし、学校と北区環境リーダーをスクールコーディネーターが繋いで、「神秘的なセミの羽化の観察会」を夏休み行事として実施しています。

豊川小学校



環境整備は主事さんのご指導のもと、ボランティアの方々と楽しく活動しています。校庭の花壇の花を種から育て、季節毎に植え替え。子どもたちも水やりを頑張っています。

堀船中学校



未来志向イベントとして毎年生徒会が生徒を集め、ボランティアの方々と花壇整備と周囲の落葉拾いを行っています。春にはチューリップのきれいな花が新入生を迎えます。

スクールコーディネーター情報共有ネットワーク

北区スクールコーディネーター(SC)連絡協議会では、地域と連携・協力し、学校を中心とした子どもたちの学びを支援しています。ゲストティーチャーや授業協力のボランティアなどお求めの際は、各学校の身近なSCにぜひご相談ください。区内のSC間で情報の共有を進めています。

王子桜中学校

園芸ボランティア部は、「食」や「環境」を考えながら、学校の屋上で野菜や花を育てています。無農薬で肥料はコンポストを主としています。本年度から、地域の方にもお手伝いしてもらっています。

学校を支える実り豊かな地域の力

北区では、令和元年度の学校支援ボランティア活動推進に関わるスクールコーディネーターは96名おります。

平成18年度からスタートしたスクールコーディネーター制度も、当初6校での実施でしたが、平成26年度から全ての区立小・中学校で取り組みが始まりました。

時代の変化とともに、学校教育を取り巻く状況は変化し、子どもたちのより良い環境作りや、先生方のより良い授業作りの手助けとなる教育活動がより一層求められています。

次世代を担う子どもたちを、地域の大人が育んでいくことは大切なことです。スクールコーディネーターは、学校の要望を受けて、様々な分野で橋渡しをしています。ボランティア活動のさらなる充実を図り、子どもたちの学びを応援していきます。

この「エール」をご覧になった方々には、いろいろな形で地域の子供たち・学校の応援団になって頂きたいと思っております。ご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



北区スクールコーディネーター連絡協議会

代表 宮川 淳子